

鳥獣被害を考える

近年、全国の中山間地域を中心にイノシシやシカなどの野生鳥獣による被害が増加しています。本来は山間部に生息する野生鳥獣が、なぜ人の住む地域に出没するのか——。今回は、被害の現状と私たちに何ができるのかを考えます。

問い合わせ 産業振興課

野生鳥獣との棲み分け

豊かな自然に恵まれた岡垣町。自然と共生する中で、野生鳥獣と人は適切なバランスを保ってきました。しかし、近年ではイノシシなどの一部の野生鳥獣が生息範囲を広げ、人が住む地域でも見られるようになり、農作物などへの被害が深刻化しています。

このため、被害防止と野生鳥獣の管理を一体とした総合的な対策の実施、耕作が行われていない農地の解消、人と野生鳥獣を分けるための緩衝地帯の整備など、人と野生鳥獣との棲み分けを進める取り組みが求められています。

野生鳥獣が増えている!?

これまで野生鳥獣は餌がな

い冬場に自然死で個体数を減らすといわれていました。しかし、近年は管理者がいない果樹や中山間地域で栽培されている農作物など、栄養価の高い食物を食べるようになったことから個体数が増加していると考えられています。

これは、山際で生活する人の減少や野生鳥獣の隠れ場所となる耕作が行われていない農地の増加など、人間社会の変化がもたらしたものと見えます。

鳥獣による被害の現状

野生鳥獣は良い餌場があると学習すると、その地域に何度とも出没し、ときには住みつくこともあります。野生鳥獣は春になるとタケノコやビワ、夏は水稻やスイカ、秋はイモ類、冬は柑橘類などの農作物を食べ、1年を通して被害を及ぼします。

町内で実際に起きた被害事例として、

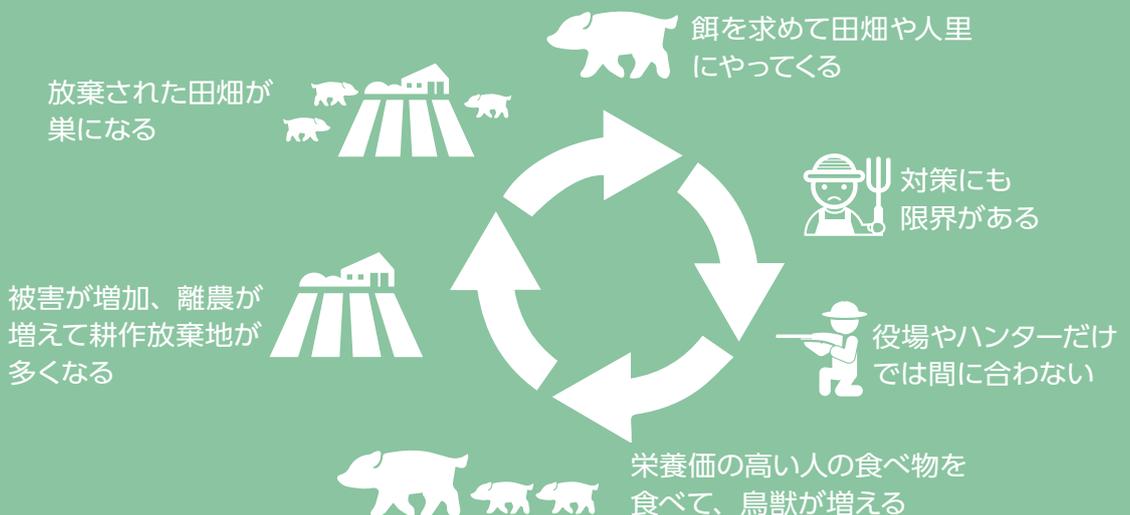
- 畑をイノシシに荒らされた
- サルに飼った犬の餌を食べられた
- カラスの大群に苗を荒らされた
- イチジクの木を何本もイノシシに折られた

などがあげられます。このように人や家畜、農作物などに被害を与える野生鳥獣を「有害鳥獣」といいます。生産者にとっては被害対策にかかる費用や労力に加え、生産意欲の低下など精神的にも大きな負担になっています。

適切な管理・保護が必要な「有害鳥獣」

有害鳥獣による農林水産業への被害が深刻化している中で、被害を軽減するための対策として柵などを設置するほ

鳥獣による被害で負の連鎖が起る



年々、被害が拡大しています



農家 早苗 勇一さん
(高倉区)

イノシシやカラス対策などいろいろと手を尽くしていますが、効果は2、3日しかありません。ヒヨドリは枝につけた実を次々につつまります。つつかれた実はすべて出荷できないため、被害が大きくなってしまいます。

今年は頭数が増えているのか、イノシシによる被害が特にひどいです。イノシシは力が強いですので枝や木を折り、畑を荒らし、あぜは削り壊されてしまいました。その後、電気柵をつけましたが、イノシシは餌がある場所を覚えたのでまた来るかもしれません。

毎年、被害を少しでも減らそうと、イノシシやカラスが来る前に収穫するため朝4時に起きたり、草刈りをしたりするなどの対策をしています。しかし、効果は一時的なので地域一体となつての対策が必要と感じています。

Interview

か、捕獲の推進、生息環境の管理が必要となります。なお、有害鳥獣を捕獲・駆除するには町の許可が必要で、岡垣町ではイノシシやサルなど14種類の鳥獣が対象となっています。

出没地域は町内全域

ここ数年で田畑はもちろん、住宅の周りにもイノシシやサルなどが出没するようになりました。被害の多くは田畑の農作物ですが、住宅地での目撃情

報も増加しており、人やペットへの被害も報告されています。

みんなで考えよう

有害鳥獣の駆除や柵などの設置といった対策は、被害を受けやすい農家だけの問題ではありません。鳥獣被害をこのまま放置すれば、被害が拡大するばかりです。対策をより効果的にするためには鳥獣被害を自分たちの問題として認識し、地域全体で対策をしていくことが大切です。

鳥獣の保護と管理、狩猟の適正化

野生鳥獣は法律により原則として捕獲が禁止されています。しかし、美しく豊かな自然環境の維持や、農林水産業の発展、安心して暮らせる生活環境を確保するために、野生鳥獣を保護し、決められた捕獲数で適切に管理・狩猟を行っています。

被害を防ぐために

被害の多い農地・農業施設などに侵入防止柵や電気柵を設置することで被害を抑えることができます。

捕獲の取り組み

- 猟友会などへの捕獲(駆除)委託
- 狩猟免許の取得支援



▲町内71カ所に仕掛けられた箱罠



▲狩猟の打ち合わせをする猟友会のメンバー

狩猟者免許取得の推進

狩猟免許所持者の高齢化などで有害鳥獣を捕獲、駆除できる人が少なくなっています。鳥獣による被害が増加している中、狩猟者確保のため狩猟免許の取得にかかる費用を助成します。

- 狩猟免許新規取得補助金 上限10,000円
- 問い合わせ 産業振興課



町に出没する 野生鳥獣

イノシシの特徴と対策

【特徴】

- 嗅覚が優れ、ひづめを持つ
- 警戒心が強く、臆病
- 唐辛子やショウガなど、臭いの強いものを嫌う

【対策】

- 身を隠せる場所をなくす、食べ物を放置しない
- 金網などを敷いて足場を悪くする
- 畑の周りに唐辛子などを植える

**野生のイノシシに
遭ってしまったら？**

■あわてない
イノシシに背中を向けず、静かに離れましょう。走って逃げるとイノシシが興奮してしまい、危険です。

■近寄らない
イノシシの子どもに近付いてはいけません。近くに母親がいる可能性が高く、襲われることがあります。

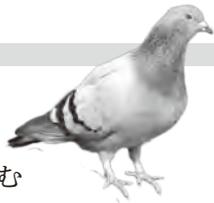
ドバトの特徴と対策

【特徴】

- 帰巢本能がある
- 植物の種子や穀物、豆類を好む

【対策】

- ワイヤーや釣り糸を張る
- 止まりそうな場所にハト除けの剣山などを置く



カラスの特徴と対策

【特徴】

- 知能が発達している
- 翼に物が触れるのを嫌う

【対策】

- 釣り糸やネットなどを張る
- 果樹は実がなる前にネットを張り、実がなったらすぐに収穫する
- 巣作りの材料になるハンガーなどは外に置かない



ニホンザルの特徴と対策

【特徴】

- 群れで生活し、学習能力が高い
- 雑食だが、唐辛子やシソを嫌う

【対策】

- 食べ物を屋外に放置しない
- 畑の周りに唐辛子などを植える



野生鳥獣を目撃！身の危険を感じたら

110番に通報を！

イノシシやサルなど、危険な野生鳥獣を住宅地などで目撃したときや被害を受けそうになったときは警察に連絡してください。



町で有害鳥獣捕獲が許可されている動物(14種類)

- | | |
|--------|--------|
| ①イノシシ | ⑧ムクドリ |
| ②カラス | ⑨スズメ |
| ③サル | ⑩ドバト |
| ④アナゲマ | ⑪カモ |
| ⑤シカ | ⑫イタチ |
| ⑥アライグマ | ⑬ハクビシン |
| ⑦ヒヨドリ | ⑭タヌキ |

近年、ハクビシンは確認されていません。また、今年度に入ってキツネの目撃情報が多く寄せられていますが捕獲対象外です。



被害を減らそう！

野生鳥獣による被害を減らすためには、地域が一体となって対策に取り組む必要があります。

その行動が野生鳥獣への餌やりになっています

畑に放置した野菜くずや収穫しない果樹などは野生鳥獣のごちそ

うです。バーベキューの後に放置した食べ物の残りなど、野外にある生ごみも格好の餌となります。

畑の野菜くずには臭いが漏れないよう土を厚くかけたり、食べ物の残りなどは分別してごみ収集に出したりするようにしましょう。

また、身近な自家用菜園などの

小規模な田畑には柵などを設置しましょう。柵にはいくつもの種類があるので、それぞれの特徴を把握して、獣種や現場に合わせたものを設置しましょう。

集落に近付かせない！

山や森林に近い田畑の藪は、野生鳥獣の隠れ場所となります。また、野生鳥獣は人が身近にいることが当たり前になると、人に慣れてしまいます。地域一体となって草刈りなどで隠れ場所をなくしたり、追い払いを行い、野生鳥獣を人の住んでいる場所に近付かせないようにしましょう。

猟友会の活動に協力を

町では有害鳥獣の捕獲・駆除を「福岡県遠賀郡猟友会」と「岡垣町有害鳥獣駆除班」に委託しています。

今年には特にイノシシの出没が多く、8月末時点ですでに100頭以上を捕獲・駆除しています。猟友会で駆除をするときには地域への周知が必要で、野生鳥獣の追い払いには猟銃の音や火薬のにおいが効果的です。野生鳥獣は身の危険を感じるとその場所に近付かなくなります。駆除は動物の行動に合わせて行うので、朝早い時間帯に銃声が聞こえることもあります。そのため、地域の人の理解と協力が必要です。

地域一体で取り組みを

人と野生鳥獣が共に生きるためには、人がしっかりと野生鳥獣の存在を認識し、互いの生活圏を守る必要があります。

人と野生鳥獣の「棲み分け」こそが共に生きるための望ましい姿です。地域が一体となり、鳥獣対策に継続して取り組んでいかななくてはなりません。

被害に悩んでいる人の役に立ちたい

依頼が増えている

イノシシの駆除依頼が年々増えています。耕作放棄地の増加で山と集落の境界があいまいになり、山にいた動物たちが人里に住みついて山に戻りません。

イノシシは年に1度、5頭くらいの子どもを産みますが、最近は餌場が豊富で冬も過ごしやすいため、年に2度出産しているようです。暖冬で子イノシシの死亡率も低くなり、頭数がどんどん増えています。



福岡県遠賀郡猟友会
会長 原田 繁三さん

イノシシ対策はこれから大きな課題になってくると思います。

餌場を作らないで

環境の変化でイノシシが増え、最近では住宅地で目撃情報や捕獲依頼があります。皆さんにできる対策は、餌場を作ったり、かわいいからと子イノシシに餌やりをしたりしないことです。私たちが追い払っても、そこに餌があるとイノシシは戻ってきてしまいます。私たちは皆さんの暮らしを守るために今後も活動に取り組んでいきます。皆さんのご協力をお願いします。

自然と人の暮らしを守る

猟友会のメンバーになりませんか

鳥獣保護管理の担い手となる狩猟者の減少と高齢化が進んでいます。猟友会の活動内容に興味がある人はぜひ、連絡してください。

問い合わせ 福岡県遠賀郡猟友会 (事務局長 田口)
☎ 090-3325-2606